

みっしょん通信

2023年10月発行 No.5

横浜教区宣教委員会ニュースレター「みっしょん通信」第5号をお届けいたします。今回は、いよいよ来月に迫った「2023年 日本聖公会宣教協議会」特集です。この宣教協議会は、私たち横浜教区の関連施設である清泉寮にて開催されます。日本聖公会の11の教区の信徒・聖職約140名が集い、これからの日本聖公会の歩みについて考える貴重な機会です。今回の執筆は入江修主教さまと、教区宣教委員・宣教協議会実行委員を担っておられる北澤洋司祭にお願いしました。ぜひお読みいただき、宣教協議会について広く知っていただきたいと思ひます。

宣教主事



共に集まり、聴き合い、語りあう ~宣教協議会開催にあたり~

主教 イグナシオ 入江 修

今年の11月に宣教協議会が清泉寮にて開催され、日本聖公会の11の教区から教区主教と8人ずつ、そして管区の委員も加わり、前回2012年の宣教協議会から10年余りの各教区の実りを持ち寄って集まろうとしています。

そこにはまず、共に集まり、交わり、聴き合い語り合って互いに学びを深め合うということが期待されていると思います。と同時に、その結果として、お互い共通するところ、そして違うところが明らかにされていくことでしょう。違いのある中でどのようにキリストにあって共に歩むことができるのか、ますます多様な世界が広がりつつある中、このことはとても大きな課題であると思ひます。

そして閉会后、各地へと散らされ、その中で聴き合い語り合われたことが広く各教会の教役者や信徒に共有され、そこで更に皆が聴き合い語り合い、各教会がますますキリストの福音をいきいきと証しする器とされていくための機会となることを願ひます。

2023年日本聖公会宣教協議会についてお覚えください

司祭 サムエル 北澤洋(宣教委員・宣教協議会実行委員)



11月10日(金)～13日(月)の日程で、山梨県北杜市清里にある清泉寮にて「2023年日本聖公会宣教協議会」が開催されます。

この原稿を読んでくださっている方の中には、宣教協議会開催についてご存じの方もそうでない方もおられることでしょう。横浜教区以外の教区では、この1年半にわたり、「ぶどうの枝だより」

という記事がほぼ2カ月に一度教区報に連載され、そこで今回の宣教協議会についての情報が発信されていましたが、残念ながら横浜教区では、横浜教区報に掲載される記事の予定が先々まで決まっていたために、この教区報版「ぶどうの枝だより」の記事を載せていただくことができませんでした。やむなく、管区事務所だより版「ぶどうの枝だより」のデータを毎回各教会の教役者にお送りし、印刷して信徒の皆さんに配布していただくようお願いしていましたが、信徒の皆さん全員分を印刷できる教会と、そうではない教会があります。ですので、管区事務所だより版「ぶどうの枝だより」を目にされていない信徒さんも多くおられることだろうと思います。宣教協議会が横浜教区で開催されるにもかかわらず、当の横浜教区の皆さんへの情報発信が行き届かず、どうしたものかと考えていたところ、宣教主事との話し合いの中で、「みっしょん通信」で宣教協議会特集を組んではどうかということになりました。大変ありがたいお話でした。

前置きが長くなりましたが、この「みっしょん通信」第5号では、今度の宣教協議会についての情報の中で、ここがポイントではないかという点をピックアップして、皆さんにお伝えいたします。

1. 宣教協議会とは何か

今回の宣教協議会に至るまでのこまごまとした経緯は思い切って省略しまして、いちばん大事な、そもそも「宣教協議会とは何か」ということをはじめに書きたいと思います。

簡単にいえば、宣教協議会とは、これからの私たち日本聖公会の宣教のあり方を話し合い、言葉のかたちにしてまとめ、それを私たちの歩みのための一つの指針とする、そのような会議です。

まず、実行委員会は、「宣教」とは何だろう、また「協議会」とは何だろうと考えました。

「宣教」とは何でしょうか。それは、「神様が主体となってなされる『神の国への招き』」のこと。また、神の国へ招かれた私たちが、今度は神様に派遣され、他の人々を神の国へ招くこと(=ミッション)」であると、私たちは定義づけました。

もう少しかみ砕くと次のようになります。

私たちクリスチャンは、神様によって「神の国」に招かれ、洗礼を受け、「神の民」の一員になって、神様との交わりのうちに信仰生活を送ることができるようになりました。「神の国に招かれた」ということは、同時に、「他の人々を神の国へ招く」者として立てられたということです。今度は私たち自身が、神様によって「他の人々を神の国へ招く」使命を与えられ、派遣されます。神様の働きの担い手となるということです(先ほど「ミッション」という言葉が出てきましたが、これは「宣教」「伝道」という意味の他に、「使命」「派遣」という意味があります)。

「宣教」(神の国へ招くこと)には二つのあり方が考えられます。一つは「福音を宣べ伝えること」。これは、イエス様の救いの出来事、つまりイエス様の教えと行いを宣べ伝えることです。もう一つは、「イエス様の生き方を自らの生き方として生きること」。イエス様の生き方に従い、これを模範として生きること、生きようとすることです。私たちは、このように「言葉」でなされる宣教と、「行い」(生き方)でなされる宣教の二つの宣教のあり方を通して、他の人々を神の国へ招くのです。

では、もう一方の「協議会」とは何でしょうか。それは、「参加者がプログラムを通して、ともに学び、気づき、語り合い、新しい宣教(『神の国の招き』)のかたちを発見していく場」である、そう定義しました。

これは、一般的な「協議会」の意味とは少し違っています。「協議会」という言葉を辞書で引きますと、「協議会とは、さまざまなあるいは同様の立場の人々や団体が集まって、ある議題について、参加者が実現化に向けた議論をし、実現に結びつけることを協議といい、そういった会を協議会という」と出てきます。今回の宣教協議会もこのような会であることは間違いありませんが、「宣教」ということを念頭に置いた意味として、上記のような定義づけをしました。

もう少しかみ砕くと次のようになります。

私たちにとって宣教とは、「福音を宣べ伝えること」(=「言葉」でなされる宣教)と、「イエス様の生き方を生きること」(=「行い」(生き方)でなされる宣教)であると考えられますが、新しい時代に向けて、私たちはどのようなあり方でこのことを実現していくのか、あるいは実現していきたいのか。そのことを参加者がプログラムを通して学び、気づき、語り合い、最終的に言葉のかたちにしてまとめ、一つの大事な指針を生み出す会議。それが今回の協議会、宣教協議会です。

2. テーマと主題聖句

今回の宣教協議会のテーマは、「いのち、尊厳限りないもの ~となりびととなるために~」です。

ちなみに、前回の「2012年 日本聖公会宣教協議会」のテーマは、「いのち、尊厳限りないもの ~宣教する共同体のありようを求めて~」でした。何だ、同じじゃないか、と思われたかもしれませんが。その通り、同じなのです。

実行委員会は、2020年12月から会議を開き、宣教協議会のための準備を進めてきましたが、その当初から、テーマをどうするかということが検討されました。途中、私たちはさまざまな管区諸委員会との分科会(「ぶどうの枝分科会」と呼んでいました)を開き、そこで各委員会の働きについて知り、また意見交換をする機会を持ちました。また、2022年8月には、管区諸委員会の代表者や各教区の宣教担当者、首座主教が一堂に会し、「ぶどうの枝協議会」を開催して、今度の宣教協議会をどういうものにしていくかを協議しました。このような多くの話し合いを経て、私たちがいちばん大事にしなければならないのは、やはり「いのち」ではないか、それを措いては何も考えられないのではないかという結論に至りました。最終的に、「いのち、尊厳限りないもの」というテーマに帰ってきたのでした。

ただ、同じテーマといっても、置かれるポイントが少し違ってきます。それがサブタイトル、「~となりびととなるために~」に表れています。

2021年4月、実行委員会は、全国の各教会、関連施設・団体、各教区、各教役者、管区諸委員会に向けてアンケートを実施しました。このことを覚えている方もおられることでしょう。今回の宣教協議会の目的の一つに、前回の宣教協議会(2012年)から10年間の各教区や管区における宣教・牧会



の实りを持ち寄ることが、前回の宣教協議会の提言の一部として挙げられていました。この目的のために、実行委員会ではアンケートを実施し、この10年間のそれぞれの実りについて教えていただきたいと考えたのです。

アンケートの回答を見て、実行委員会は、この10年間でこれほど豊かな実りがあったのかと驚かされました（アンケートのすべての回答は「2023年 日本聖公会 宣教協議会 ブログ」(<https://2023-missionconference-nskk.blogspot.com/>)で見ることができますので、関心のある方はそちらをご覧ください)。そして、アンケートの回答を分析していく中である事実に気がつきました。それは、私たち日本聖公会に連なる教会や教役者、教区、諸施設、管区の委員会が、イエス様と同じように、いつも「となりびと」を大切にしながら歩んできたということです。これまでと同じように、これからも「となりびと」の存在を大切にしながら、日本聖公会の新しい宣教の歩みを考えたい。実行委員会はそのように考え、宣教協議会のテーマのサブタイトルとして、「～となりびととなるために～」という言葉をつけました。

また、主題聖句は、「私はぶどうの木、あなたがたはその枝である。人が私につながっており、私もその人につながっていれば、その人は豊かに実を結ぶ。私を離れては、あなたがたは何もできないからである」（ヨハネによる福音書第15章5節、聖書協会共同訳）です。

イエス様は、「私はまことのぶどうの木」と弟子たちに告げられました（ヨハ15:1）。「まことのぶどうの木」であるイエス様とつながり、力をいただいてそこから伸びていく、そのようなさまざまな枝の集まりが、今回の宣教協議会全体のイメージです。

3. プログラム紹介

今回の宣教協議会では、上記のテーマに沿ってプログラムが立てられています。その主なプログラムについてご紹介します（※下の図は現時点でのスケジュールです。時間など若干変更される可能性があります）。

11月10日（金）		11月11日（土）		11月12日（日）		11月13日（月）		
7:30		7:30	朝食	7:30	朝食	7:30	朝食	
8:00		8:00		8:00		8:00		
8:30		8:30	8:30	8:30				
9:00		9:00	朝の祈り	9:00	聖餐式	9:00	清里コール作成 意見交換	
9:30		9:30	テーマ・聖句・思いの共有、導入	9:30		9:30		
10:00		10:00	いのちの現場から聴く	10:00	主教会からメッセージ	10:00	閉会聖餐式 解散	
10:30		10:30		10:30		10:30		
11:00		11:00		11:00	11:00			
11:30		11:30		11:30	11:30			
12:00		12:00	昼の祈り	12:00	宣教協働区アワー (昼食)	12:00		
12:30		12:30	昼食	12:30	12:30	12:30		
13:00		受付・ブース準備	13:00	分科会	13:00	グループシェアリング	13:00	
13:30			13:30		13:30		13:30	
14:00	実り持ち寄りブースの紹介	14:00	休憩	14:00	グループシェアリングの 分かち合い	14:00		
14:30		14:30		14:30		14:30		
15:00	オリエンテーション 休憩	15:00	グループシェアリング	15:00	夕食	15:00		
15:30		15:30		15:30		15:30		
16:00	夕食	16:00	グループシェアリング	16:00	夕食	16:00		
16:30		16:30		16:30		16:30		
17:00	私たちのあゆみ ～物語を聴く	17:00	み言葉の礼拝	17:00	フリータイム	17:00		
17:30		17:30		17:30		17:30		
18:00	開会礼拝	18:00		18:00		18:00		
18:30		18:30		18:30		18:30		
19:00		19:00		19:00		19:00		
19:30		19:30		19:30		19:30		
20:00		20:00		20:00		20:00		
20:30		20:30		20:30		20:30		
21:00		21:00		21:00		21:00		
21:30		21:30		21:30		21:30		
22:00		22:00		22:00		22:00		
22:30		22:30		22:30		22:30		

●実り持ち寄りブースの紹介(オンライン配信あり)

この10年間で、各教区や管区諸委員会においてどのような実りがあったのか、また現在取り込んでいる課題は何かを目に見えるかたちで分かち合うことを目的としたプログラムです。各教区・各委員会が一つのブースを設置し、そこに報告書や広報物、記念誌、独自に作成した本や冊子などを展示します。またブースの一部に「ミニバザーコーナー」を作り、それぞれの品を通してお互いの恵みを分かち合います。

●私たちのあゆみ ~物語を聴く(オンライン配信あり)

この10年間の実りと信仰生活を続ける中での思いについて、三つの教会からお話をお聴きします。お話いただくのは、屋我地聖ルカ教会(沖縄教区)の皆さん、巖原聖ヨハネ教会(九州教区)の皆さん、そして大館聖パウロ教会(東北教区)の皆さんです。

●いのちの現場から聴く(オンライン配信あり)

5人の語り手の皆さんから、「となりびと」と出会い、ともに歩み始めた物語をお聴きします。お話いただくのは下記の皆さんです。お話の後、5つの分科会に分かれてそれぞれのプログラムを持ちます。

- ・安達美樹さん(公益財団法人キープ協会 清里聖ヨハネ保育所)
- ・堀江有里牧師(信仰とセクシュアリティを考えるキリスト者の会(ECQA)代表、日本基督教団牧師(京都巡回牧師)、公益財団法人世界人権問題研究センター専任研究員)
- ・竹迫之牧師(日本基督教団白川教会牧師。「カルト」の問題に携わる)
- ・半田ウィリアムズ郁子司祭(英国教会リーズ教区司祭。リーズ大学病院、聖路加国際病院にてチャプレンとして勤務)
- ・マルコ柴本孝夫司祭(福岡聖パウロ教会、久留米聖公会牧師。長らく管区の正義と平和委員・協力委員、災害支援やホームレス支援活動に携わる)

●グループシェアリング

7名ずつ20グループに分かれ、意見交換の時を持ちます。前半は、「私たちのあゆみ ~物語を聴く」や「いのちの現場から聴く」といったプログラムを受けた感想を述べ合い、後半は、最終日にまとめられる「清里コール」(後述)に心を向け、それを具体的なかたちにするために検討していきます。

●主教会からのメッセージ(オンライン配信あり) / 宣教協働区アワー

主教会から、宣教協働区制が導入されてから現在に至るまでのご報告をいただき、主教様方の思いをお聴きします。また宣教協働区アワーでは、三つの宣教協働区グループに分かれて交わりの時を持ちます。

●清里コール(2023年宣教協議会からの呼びかけ)作成・意見交換

最初に触れた、日本聖公会の新しい宣教(=「神の国への招き」)のあり方を、実行委員会では「清里コール」と呼びたいと考えています。この時間では、前もって各グループから出された意見をもとにドラフトを作成しておき、これをたたき台として意見交換を行い、「清里コール」としてまとめていきます。

4. 横浜教区の参加者紹介

横浜教区の参加者は下記の皆さんです。

1. 入江修主教(教区主教)
2. 小林祐二司祭(ホームページ委員長、管区正義と平和委員会沖縄プロジェクト担当)
3. 窪田真人司祭(宣教主事)
4. 岩井譲治兄(常置委員)
5. 青木亜矢姉(教区婦人会役員)
6. 宮崎眞琴姉(幼稚園・保育園委員長)
7. 波田祈里恵姉(青少年担当者)
8. 片山修兄(青少年担当者)

この方々の上に、神様の祝福と導きをお祈りください。

5. お願い

最後になりましたが、11月10日(金)~13日(月)に行なわれるこの宣教協議会のためにお祈りください。宣教協議会で出される「清里コール」が、日本聖公会に連なるすべての人々を勇気づけ、また元気づけるものとなりますように。

管区のプログラムというと、私たちはつい「どこか上のほうで、誰も知らない管区の人たちが何かやっている」といったイメージを持ちますが、それは誤解です。管区のプログラムに実際に出てみると、そこにおられるのは「管区の人」などではなく、日本聖公会のどこかの教会に属しておられる信徒や聖職です。「教会の人」です。

私たちの教区、横浜教区を構成しているのが私たち一人ひとりであるように、私たちの管区、日本聖公会を構成しているのも私たち一人ひとりです。そして、教区はそこに属する教会を支えるために存在し、管区はそこに属する教区を支えるために存在しています。今度の宣教協議会が、何か抽象的な目的のために行われるのではなく、個別具体的な教会のため、そしてそこに集う信徒と聖職のために何事かを為そうとしているということをお覚えいただければ幸いです。

先ほどの「3. プログラム」の中でも書き添えましたが、今回の宣教協議会では、可能な限りオンライン配信を行い、会議の様子をリアルタイムで視聴できるようにする予定です。「2023年 日本聖公会 宣教協議会 ブログ」(<https://2023-missionconference-nskk.blogspot.com/>)にてご案内することになるかと思えます。実際に清里に集うことができる人数は限られますが、オンライン配信ならば、関心のあるすべての方に視聴していただくことができます。ほぼ10年に一度の貴重な機会です。一人でも多くの方に視聴していただければと思います。



2023年 日本聖公会宣教協議会 ブログ

